令和５年９月２９日（金）

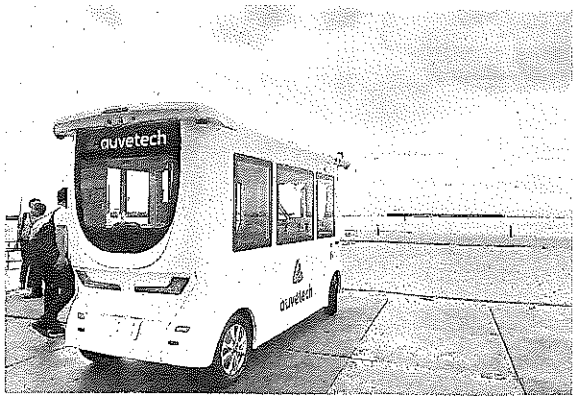
日刊自動車新聞１６面

「レベル4」準拠小型自動運転バス

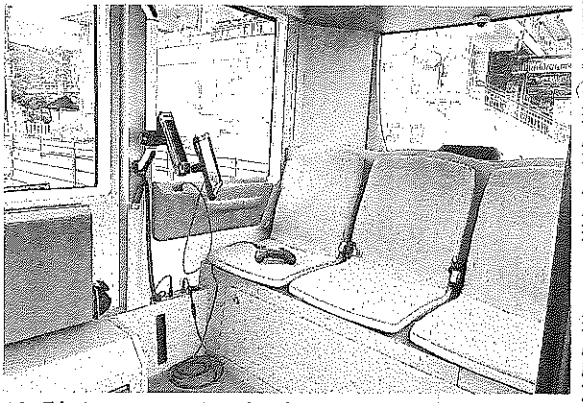
神戸・須磨海岸で体験乗車会

来年6月の本格導入も視野

神戸市が自動運転「レベル4（特定条件下における完全自動運転）」に準拠した電気自動運転車（EV）「MiCa（ミカ）」を使用した国内初の体験乗車会を須磨海岸（須磨区）で開催している。同海岸内の管理用通路を走行し、JR須磨駅から9月にオープンした新エリア「松の杜ヴィレッジ」までの約2・4キロメートルの道のりを結ぶ。同エリアは2024年6月開業の水族館「神戸須磨シーワールド」を目玉として再整備が進む。市は再整備により多くの来訪者が見込まれることから、来年6月の本格導入も視野に入れている。



須磨駅から水族館への新たな足として期待されるミカ



係員が座る席にはモニターやコントローラーを設置

ミカはエストニアのオープテック社が設計・製造し、日本国内の販売代理店業務をソフトバンク子会社で自動運転サービスを手掛けるボードリー（佐治友基社長兼CEO、東京都港区）が行う。7つのLiDAR（ライダー、レーザースキャナー）と8つのカメラを搭載し、障害物を自動で回避する。

大きな特徴は日本向けに専用設計した点。ドアの設置場所やライトを日本の保安基準に合わせて変更したほか、ソフトウエアはティアフォー（加藤真平社長、東京都品川区）の製品を搭載するなど日本仕様にこだわった。国内企業のソフトウエアを採用することで、「（エンジニアが身近にいるため）細かな設定がしやすい」と市の担当者は利点を話す。

ハンドルがない広々とした車内には、前後と片側サイドで計8人が乗車できる。現時点ではレベル4の認可を取得していないため、係員が1人乗車し、イレギュラーな事態が発生した際は専用のコントローラーで操作を行う。最高時速は20キロメートルだが、今回は周辺の道路環境や安全性を最大限に考慮し、12キロメートルまでとした。

乗客は無料通信アプリ「LINE（ライン）」の予約画面から、車両カメラで撮影したリアルタイムの走行状況を見ることもできる。

体験会は23～29日に実施し、1日最大で12往復・24便が運行している。土日の予約は開催前から満席の便も発生するなど市民の関心は高い。

本格導入した場合、今回よりも多い便数を運行することが想定される。市の担当者は「車両同士がすれ違う際の車幅の確保や充電設備の拡充は考える必要がある」と認識を示す。また、料金を利用者負担とするか、水族館など施設利用者は無料とするかは、今後検討する方針という。

佐治社長は「小型自動運転バスは、既存のバス事業者ではカバーしきれないエリアの移動手段を担う、いわば毛細血管のような存在だ。自動運転の認可が取得できれば、複数台を常時遠隔監視するような運用も可能になる」と実用化に向けて期待を込める。

市は乗車した市民らに実施するアンケートの結果も踏まえ、実用化を検討していく。（神戸）